

群 教	E 03 - 03
セ	平 14.206 集

進んで話し合い活動に取り組む児童を育てる 学級活動

- みんなの思いをひとつにつなぐ収穫祭づくりを通して -

特別研修員 小林 克典

《研究の概要》

本研究は、収穫祭という学校行事を自分たちで作り上げていく活動を通して、参加者の思いをつないで話し合い、実践することの喜びを体得することにより、進んで話し合い活動に取り組む児童を育てることを目指したものである。具体的な活動として、昨年度の収穫祭を振り返る話し合い活動を行い、新たな課題を発見した上で、参加者の収穫祭に寄せる思いを調査し、一覧表にまとめ、参加者みんなの思いをひとつにつなぐ話し合い活動を行った。

【キーワード：特別活動 小学校 学級活動 話し合い活動】

主題設定の理由

現代の子どもたちは集団への適応力に乏しく、孤立化する傾向があるといわれている。集団における所属感や連帯感が希薄になり、集団の一員としての達成感や成就感を味わえない。それは、みんなですることの喜びを知らない子どもたちが増えていることに原因があるのではないだろうか。自分たちで考え、協力し、たとえ失敗してもそこから学んでいけるような体験を積み重ねることによって、集団の一員としての達成感や成就感を味わえるものとする。

本学級6学年は男子3名、女子5名、計8名の少人数学級である。小規模であるがゆえに、6年生になると、そのまま児童会や代表委員会の主体として活動する場面が多い。学級活動の時間では、学校全体の問題点や改善点について話し合う機会が多い。教師側から与えられた課題に対して、自分なりの考えをもって意見を発表できる児童もいるが、課題を自分自身のこととしてとらえられずに、自分の考えをもてずに、実践場面で自主的に活動できない児童もいる。

自主的に活動できない原因として、学校行事や児童会活動などが与えられて行うものであるという意識が強いことが考えられる。活動の中には児童が主体的に計画を立てたり、運営を担うことのできる内容が存在する。児童が話し合い、決定できる内容を明確に示していくことで、活動を自分たちで作り上げていくという意識に高められるのではないかと考える。自分たちで活動を作り出していくために話し合い活動を充実させていくことによって、自主的・実践的な態度が培えるものとする。また、昨年までの自分たちの活動を振り返ることによって新たな課題を発見していくことが重要だと考える。計画委員会での検討会をもち、従来の活動について意見を集め、話し合い、自分たちで活動を作る意欲を高めていきたい。

本校では、秋に地域の高齢者を学校に招待し、収穫祭を行っている。児童も毎年楽しみにしている行事であるが、中にはなぜ収穫祭が行われているのか、自分がどのように高齢者にかかわっていったらいいのか理解できていない児童も見受けられる。そこで学級活動の時間において、収穫祭という一つの行事に視点をあて、参加する高齢者、児童の思いを調査し、その思いに近づけるような活動に向けての話し合い活動を工夫したい。みんなの思いをひとつにつなぐために話し合い活動を工夫し、自分たちで収穫祭という行事を作り上げていく活動を通して、進んで話し合い活動に取り組む児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

学級活動の時間において、収穫祭に寄せるみんなの思いをひとつにつなぐために話し合い、自分たちで活動を作り上げ、実践することの喜びを体得することにより、進んで話し合い活動に取り組む児童の育成が図れることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 計画委員会を中心として、招待する高齢者と全校児童を対象に収穫祭意識調査活動を行い、その結果を「みんなの思い一覧表」に表すことによって、自分たちを支えてくれている地域の方々と交流し、感謝の気持ちを表すという収穫祭のねらいや、収穫祭に寄せる参加者の思いに気づき、収穫祭に向けての自分のめあてをもつことができるであろう。
- 2 学級活動「思いをつなごう収穫祭」において、一覧表に集約した収穫祭に対する参加者の思いを知り、それらをつなぎ、実現するために、考え、意見を出し合うことによって、参加者の思いが自分の思いとしてとらえられ、話し合い活動に意欲をもつことができるであろう。
- 3 学校行事「みんなの思いをひとつにつなぐ収穫祭」において、みんなの思いを実現するための計画に沿って、高齢者をお招きして収穫祭を行うことによって、参加者の喜びが活動を作った自分の喜びとなり、進んで話し合うことに喜びを感じるができるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「進んで話し合い活動に取り組む児童」について

進んで話し合い活動に取り組む児童とは、活動のねらいに気づき、活動に対する自分の思いをもって話し合い活動に取り組むことのできる児童のことである。

活動を何のために行うのか、活動の目的やねらいに気づくことができていると、活動に対する自分の思いがもてずに、受け身の取組になってしまう。自ら進んで話し合い活動に取り組むためには、活動のねらいを児童の中に明確にさせることが第一であると考えます。

本研究では、活動に参加する人々の活動に寄せる思いに気づき、その思いをつないで自分自身の思いとしてとらえることにより、活動のねらいを明確にすることをねらいとしている。活動のねらいが明確になれば、自分自身の活動へのめあてが生まれ、話し合い活動が充実するものと考えます。

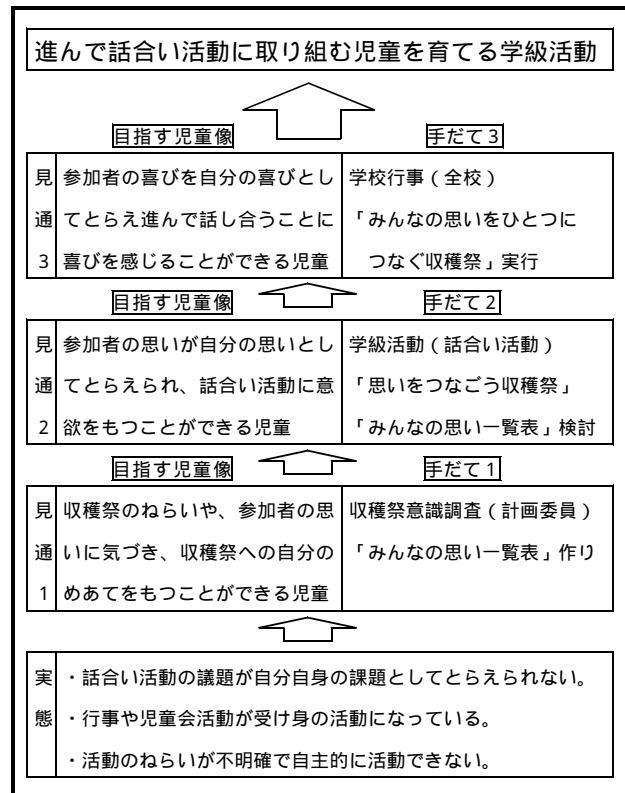


図1 全体構想図

(2) 「みんなの思いをひとつにつなぐ収穫祭」について

「みんなの思い」とは

収穫祭に参加する高齢者の方々、地域の方々、全校児童がもっている収穫祭という行事に寄せる希望や願いのことである。昨年まで行っていたお年寄りとの交流内容（遊びや生活体験）についてアンケート調査を行い、収穫祭の参加者のそれぞれの思いに気づき、そこから収穫祭のねらいに気づかせたい。

「ひとつにつなぐ」とは

収穫祭に寄せる参加者の希望や願いが実現できるように、また、誰もがみな楽しめるように、6年生として話し合い、活動の計画を練っていく活動のことである。アンケート調査によって集約した収穫祭参加者の思いを、それぞれの活動内容ごとに整理し分かりやすく一覧表にまとめる活動を行うことによって、参加者それぞれの思いを大切にしながら話し合いを進めさせたい。

「収穫祭」とは

本校で行っている収穫祭は、学校で収穫した野菜を高齢者とともに調理して会食をしたり、昔の遊びを教えていただいたり、一緒に花の苗植えを行ったりする行事であり、児童、高齢者が楽しみにしている活動である。収穫祭に寄せる参加者みんなの思いを改めて知り、それらをつないでいくというねらいをもつことは、話し合い活動に意欲をもたせるために有効であると考えられる。みんなが楽しみにしている収穫祭を、みんなの思いをひとつにつなげる話し合い活動によって自分たちで作り上げていく活動を通して、達成感や成就感を体得させられるものにしたい。

(3) 計画委員会について

計画委員は3名の輪番制で行っている。収穫祭に向けて、高齢者の方々、全校児童に対する取材の計画を立てるとともに、調査結果をまとめていく話し合い活動へとつなげるため、議題の選定、提案方法について、事前の準備をさせていきたい。計画委員の提案から話し合いに入り、児童の意欲を引き出し、自分たちで活動を作り上げていくという意識を強くもたせたい。

2 実践の概要及び結果と考察

検証にあたっては、抽出児を中心とした児童の観察、振り返りカードへの記述内容、みんなの思い一覧表等を使う。抽出児A子は自分から進んで活動に取り組むことが少なく、受動的な面が目立つ児童である。事前の収穫祭についてのアンケートにおいても、「去年と同じでいい。」といった記述が見られ、活動に対する意欲が見受けられなかった。

(1) 活動計画

	活動の場	活動内容	検証の観点	検証方法
事前	学級活動9月「収穫祭を振り返ろう」	・ 昨年の活動について、写真、感想文を使って振り返る。	・ 今年度の収穫祭づくりへの意欲をもつことができたか。	アンケート用紙への記述内容
見通1	放課後等 9月 収穫祭意識調査 一覧表作り	・ 収穫祭参加者に意識調査を行う。 ・ 調査結果を「みんなの思い一覧表」にまとめる。	・ 収穫祭のねらい、参加者の思いに気づき、収穫祭への自分のめあてをもつことができたか。	調査集約活動の観察 アンケート用紙 みんなの思い一覧表
見通2	学級活動10月 「思いをつなごう収穫祭」	・ 「みんなの思い一覧表」をもとに、活動計画について話し合う。	・ 参加者の思いを自分の思いとしてとらえ、話し合い活動に意欲をもつことができたか。	話し合い活動での発言 振り返りカードへの記述内容。
見通3	学校行事10月 「みんなの思いをつなぐ収穫祭」	・ 話し合って決定した内容に沿って参加者の思いを考えながら収穫祭を行う。	・ 参加者の喜びを自分の喜びとしてとらえ進んで話し合うことに喜びを感じることができたか。	招待状の記述内容。 実施場面での様子。 事後作文の記述内容。
事後	帰りの会	・ 収穫祭を振り返り、感想をまとめる。	・ 自分たちの話し合い活動について振り返ることができたか。	振り返りカードへの記述内容。

(2) 収穫祭のねらいや参加者の思いに気づき、収穫祭への自分のめあてをもつことができたか。(見直し1)

ア 実践の概要

学級活動で昨年度の収穫祭を振り返り話し合ったところ、児童とお年寄りの交流がうまく図れなかったという反省が多く出された。そこで計画委員から、参加者である高齢者と全校児童に、収穫祭に対する意識調査をしようという提案がなされ、全員の承認を得た。そして、その結果を一覧表に表すことで、参加者の収穫祭に寄せる思いに気づくとともに、自分たちを支えてくれている地域の方々と交流し、感謝の気持ちを表すという収穫祭のねらいに気づき、収穫祭への自分のめあてをもつ活動を行った。

イ 結果と考察

A子は計画委員としてアンケート用紙作りや回収箱作りの活動中、「たくさん意見が集まるといい。どんな答えが返ってくるのか、楽しみ。」といった感想をもっていた。高齢者の方々へのアンケート用紙は、イラストを入れて温かい雰囲気を出そうと工夫していた。低学年の児童にはインタビュー形式、中学年の児童には記述式で調査を行った。

資料1 みんなの思い一覧表(話し合い前の計画委員による集計結果)

	お年寄りから	1.2年生から	3.4.5年生から
お年寄りに聞いてみたいこと		昔の食べ物 遊び 昔の服 昔の学校	戦争時代 米づくり 応用水のこと
昔の遊びや生活体験の希望	お手玉 ゲートボール 川 すいとん作り	カルタ お絵かき 折り紙 トランプ	将棋 囲碁 お手玉 こま回し けん玉
すいとんづくりの希望	粉に牛乳をまぜる 応用の野菜を使う	おいしかった 肉を入れてほしい	大根 かぼちゃ 学校のジャガイモ
ゲートボールの希望	みなさんが上手にな って嬉しいです	楽しかった	なかなか順番が回 てこなかった
プリムラ植えの希望	きれいに咲かせてく れてありがとう	楽しかった	ペアを組めない低学 年がいた

A子は低学年のインタビューを担当したが、放送委員会での経験を生かし、具体的な交流の希望を集めていた。それらをまとめて一覧表にしたのが資料1である。調査結果を一覧表に表す作業では、「話し合いでみんなに分かりやすいように。」とまとめ方を工夫していた。最初は収穫祭づくりに消極的だったA子が、計画委員として一覧表にみんなの思いをまとめていく作業を通して、活動への自分なりのめあてをもち、意欲的に取り組んでいることがうかがえる。また高齢者のアンケートの中には、「今年も元気に収穫祭へ行けることを心から嬉しく思います。」「皆さんと一緒にすいとんを作るのが毎年の楽しみです。」といった記述が見られ、集約作業をしていたA子からは、「お年寄りがそんなに楽しみにしてくれてたなんて知らなかった。がんばりたい。」「みんなに紹介した方がいい。」という声が聞かれた。A子が参加者の収穫祭に寄せる思いに気づき、意欲をもって取り組んでいったことが分かる。

資料2は計画委員の活動後に残したA子の感想をまとめたものである。この中でA子は、「みんなの考えがだんだん分かってきた。」「すいとん作りをなるべく手伝って、多めに作りたい。」という感想を述べている。この

資料2 計画委員会でのA子の感想

ことから「みんなの思い一覧表」を作ることによって、自分たちを支えてくれている地域の方々に感謝の気持ちを表すという収穫祭のねらいに気づき、参加者の具体的な思いに気づくとともに、収穫祭に向けて自分のめあてをもてたことが分かる。

最初は計画委員は私も大変でしたが、アンケートがたくさん集まると、みんなが考えていることがだんだん分かってきました。お年寄りの意見がもっとたくさんあればよかったです。私は去年はすいとん作りをしました。ほとんとお年寄りさんに、手伝ってもらったので、今年もなるべく手伝いたいと思います。お年寄りさんにも、今年もたくさん作りたいです。

(3) 収穫祭参加者の思いを自分の思いとしてとらえ、話し合い活動に意欲をもつことができたか。(見通し2)

ア 実践の概要

学級活動「思いをつなごう収穫祭」において、「みんなの思い一覧表」をもとに参加者の思いをつなぐための話し合い活動を行った。計画委員3名が話し合いの準備や司会進行を行った。模造紙に書いた「みんなの思い一覧表」には、調査した参加者の思いがまとめてあり、それぞれの活動について、みんなの思いができるだけ生かされるよう配慮しながら話し合いを進めた。

イ 結果と考察

A子は計画委員として副司会を務めたが、話し合いが円滑に進むように司会を助ける場面が多く見られた。話し合い振り返りカードへの記述には、「一覧表のところでたくさん意見を出してくれて、みんな真剣に考えてくれてよかった。」とあり、計画委員としての自覚がうかがえた。

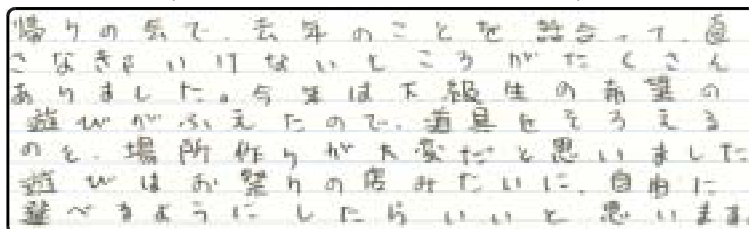
意識調査の結果、高齢者からは昨年まで行っていたすいとんづくりやゲートボールをぜひ続けてほしいという意見が集まった。昔の遊びについては、高齢者からは昨年までの遊びをまたやりたいという声、下級生からは将棋や囲碁を教えてほしいという声が寄せられた。そこで、高齢者に教えていただけそうな遊びを話し合いの中で考えた結果、従来の遊びをそのまま残しながら、新たな遊びを加えていくことになった。児童の「一覧表にまとめてあって分かりやすく、たくさん意見が言えた。」という感想にもあるように、活発な意見交換ができた。しかし、参加者の思いをつなぐ話し合い場面では、集計した結果を取捨選択する作業に意識が集中してしまい、6年生としての意見を交えた深まりが見られなかったという反省が残った。

そこで話し合い終了後、計画委員が次の話し合い活動への計画を立てた。「学級活動の時間だけでは、収穫祭に間に合わない。」「ひとつひとつの活動を別々に話し合いたい。」という意見が出された。そこで、帰りの会を使ってそれぞれの活動ごとに昨年度までの活動を振り返り、みんなの思いを考えながら、新たな活動を作っていく話し合いをしていくことになった。

A子は、昔の遊びや生活体験についての話し合いの中で、昨年の体育館での遊びの様子について詳しく振り返り、壊れている道具の修理や場所作り(屋台形式)などを、進んで提案していた。資料3は昔の遊びや生活体験についての話し合い後に、A子が記述した感想文の一部である。

資料3 A子の話し合い振り返りカード

(帰りの会「ショートの話合い」から)



資料4は、「思いをつなごう収穫祭」で一覧表を使ってまとめたみんなの考えを、帰りの会の時間を使った「ショートの話合い」で、より具体的に話し合い、決定した内容をまとめたものである。「すいとんづくり」の話合いでは、「お年寄りの希望を生かして、学校の野菜をたくさん入れて、牛乳で粉をといてみよう。」「肉を入れたいという低学年の希望をかなえたい。」といった意見が出され、活動の内容が決定された。話し合いの様子や、決定内容からもみんなの思いを自分の思いとしてとらえ、意欲的に話し合うことができるようになったといえる。

資料4 みんなの思い一覧表

(話し合い後 決定した内容)

お年寄りとの話について	今年は地区別の班にして、顔見知り同士で、たくさんお話できるようにする。
昔の遊びや生活体験について	例年の遊びに新しい遊びを加え、自由に選べる屋台形式にする。
すいとんづくりについて	学校でとれた野菜を入れる。牛乳で粉をとく。肉を入れる。多めに作る。
ゲートボールについて	人気が集まるのでコートを2面作る。名人に指導をお願いする。
プリムラ植えについて	土入れの場所がせまかったので、外に変える。低学年からペアを組む。

(4) 参加者の喜びを自分たちの喜びとしてとらえ、進んで話し合うことに喜びを感じることができたか。(見通し3)

ア 実践の概要

学校行事「みんなの思いをひとつにつなぐ収穫祭」では、収穫祭意識調査から話し合い活動でつないできた収穫祭参加者の希望や願いを、常に念頭に置きながら実践を行った。より親密な交流をねらいとして、交流班の編成を地区別に変え、アンケートをもとに新たな遊びを考え、地域にそれぞれの遊びの名人を捜し、教えていただけるよう依頼し、交流を行った。

イ 結果と考察

地区別の交流班では、お互いにご近所の顔見知りという事で、例年に比べて話しやすい雰囲気を作られた。高齢者からは、「いつも招待状をくれる子と、ゆっくり話せてよかった。」という感想が寄せられた。また、遊びや生活体験ではアンケートをもとに新しい遊びを加えたところ、「囲碁が増えてよかった。昔は五目並べをしてよく遊んだ。子どもの頃を思い出した。」という感想をいただいた。高齢者には生活体験や遊びごとに、事前に名人を依頼していたこともあって、熱心に教えていただくことができた。収穫祭終了後にいただいた手紙の中でも、自主的に取り組むことのできた児童に対して、たくさんのお褒めの言葉をいただくことができた。資料5は、その一部をまとめたものである。

資料5 お年寄りからの手紙

子ども達が自主的に礼儀良く仕事分担もよくやっていて感心しました。
 すいとんもおいしく、おかわりして御馳走になりました。
 いつも明るく元気よく、よい思い出を作っていました。

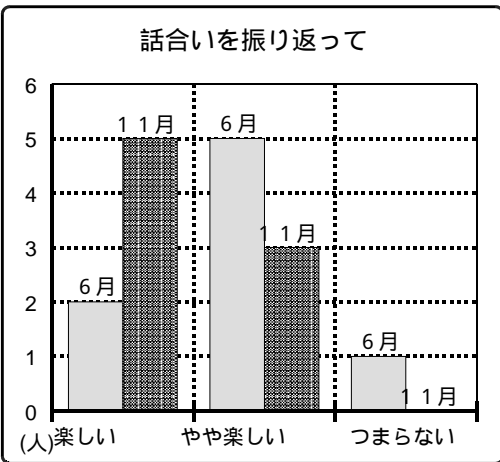
A子は収穫祭では司会進行を任せられ、資料6 収穫祭終了後のA子の感想

前日の準備終了後も、繰り返し練習する姿が見られた。日記にも、「お年寄りと下級生が楽しめるようにがんばりたい。」という記述が見られた。お年寄りとの交流場面では自分から声をかけ、地域の廃線になった鉄道についての質問などをしていった。プリムラ植えでは、1年生がお年寄り

計画を真ん中裏表を作ったお年寄りに喜んでもらうために、たくさん話し合いました。地区別にして話がたかさんでできて良かったと思います。植木や生活体験はいろいろ話合っただけです。お年寄りの方もいろいろ教えてくれてうれしかったです。お年寄りかき取り時に喜んでくれていたのがうれしかったです。最後の収穫祭は、自分たちでいろいろ工夫して作れてよかったと思います。

とペアを組めるように、手を引いて連れて行ってあげる姿も見られた。資料6は、A子が収穫祭終了後に活動を振り返った感想文である。これを見ると、「お年寄りに喜んでもらうために」とあり、収穫祭のねらいを自覚し、自分自身のめあてをもって臨んでいることが分かる。さらに、「お年寄りが帰るときに喜んでくれていたのですね」とあり、資料7 話し合い活動に対する意識の変容

れしかかったです。最後の収穫祭は、自分たちでいろいろ工夫して作れてよかったです。」という記述から、みんなの思いをつないで話し合っただけで作りあげた活動が、お年寄りに喜んでもらったことで、自分自身でも喜びを感じていることが分かる。また6年生8名の学級全体を見ると、みんなの思いを大切に話し合い活動をもとに、自分たちで工夫して実践したことが参加者に喜んでいただけたことによって、話し合い活動が楽しいと感じる児童が増えたことが分かる。資料7は6月から11月の話し合い活動に対する児童の意識の変容をグラフに表したものである。

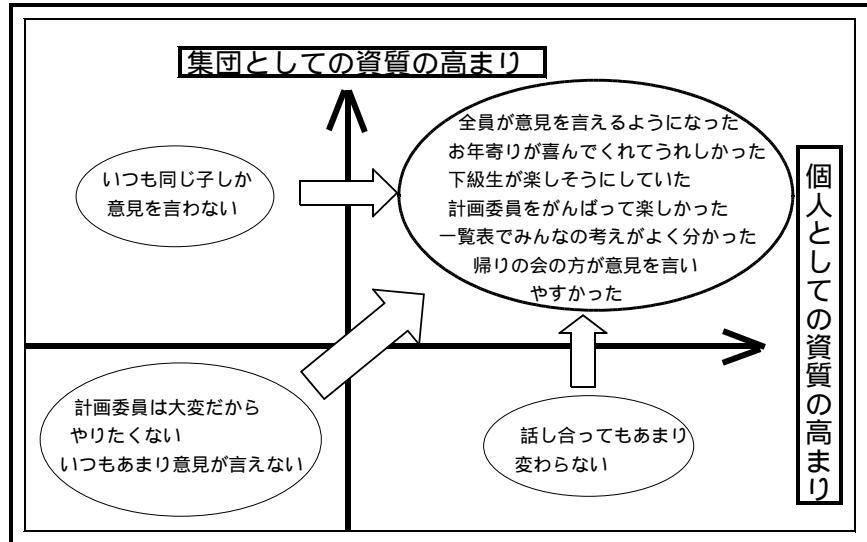


話し合い活動についての振り返りカードに、「話し合い活動は楽しい。」と答えた児童が、6月では2人だったのに対し、収穫祭終了後の11月では5人に増えている。その理由は「計画委員が楽しいから。」(1人)「みんなたくさん意見を言うようになって盛り上がるから。」(2人)「話し合っただけでみんなが喜んでくれたから。」(2人)である。この結果を見ても、話し合いを通じて自分たちで活動を作り上げていくことに、喜びを感じていることが分かる。

資料8は、話し合い活動に対する6年生8名の意識の変容を構造化したものである。これを見ると、児童の話し合い活動に対する意識が、個人的なレベルから集団の一員としてのレベルに移ってきていることが分かる。A子は6月は「話し合ってもあまり変わらない。」という感想をもっていたが、収穫祭終了後には「話し合いをしたから、お年寄りや下級生が喜んでくれた。」

資料8 話し合い活動に対する意識の変容の構造図

は抽出児



という感想に変わった。A子の意識が、話し合い活動は自分たちで考えて活動を作り出していけるものであるという意識に変わってきているといえる。このことから、自分たちで話し合っただけで実施した収穫祭が、参加者である高齢者や下級生に喜んでもらったことによって、話し合いに喜びを見出すことができたといえる。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

昨年度の収穫祭を振り返る話し合い活動を行った結果、今年度の収穫祭に向けて、新たな課題を発見し、自分たちで行事を作ろうという意欲が高められた。

計画委員を中心に、地域の高齢者や下級生へのアンケート調査を行った結果、収穫祭のねらいと、収穫祭に寄せる参加者の思いに気づくことができた。

参加者の思いを一覧表に表し、一覧表をもとに話し合い活動を行い、さらに各活動ごとに話し合い活動を行った結果、参加者の思いを自分の思いとしてとらえ、意欲的に話し合うことができた。

話し合い活動により、自分たちで収穫祭を作り上げ、アンケート調査などをもとに工夫した点について、参加者に喜んでいただけたことで、児童自身も喜びを得ることができた。

2 今後の課題

収穫祭で地域の方に喜んでいただいた経験を生かし、さまざまな活動場面で、自分たちで進んで話し合い、活動を作り上げていく児童を育成していきたい。

参考文献

- ・宮川 八岐 編著 『小学校特別活動 基礎基本と学習指導の実際』 東洋館出版社(2002)